

厚生労働科学研究費補助金(エイズ対策政策研究事業)
「拠点病院集中型から地域連携を重視した HIV 診療体制の構築を目標にした研究」
令和 2 年度 分担研究報告書

【研究分担課題名】 東葛北部地域の悪性腫瘍合併患者に関する研究
研究協力者：塚田 弘樹 東京慈恵会医科大学 感染制御科教授

研究要旨：千葉県 HIV 拠点病院会議メンバーからの聞き取りの分析を基に、千葉県東葛北部地域における悪性腫瘍合併 HIV 感染症患者の実態を検討した。癌年齢と言われる 50 歳以上の患者は 3 病院ともに一定数みられたが、悪性腫瘍を合併した患者は 1 名にとどまっていた。しかし、今後年齢を重ねていくにしたがって、増加することが予想され、地域の癌拠点病院でもある東京慈恵会医科大学の役割が増していくことが予想される。東京依存型の診療圏でもあり、飛び込みでがん診療を求める感染者も予想され、地域の受け入れ体制の用意が必要である。

A. 研究目的

千葉県 HIV 拠点病院会議(事務局 千葉大学医学部附属病院)の活動基盤を利用し、東京近郊である千葉県東葛北部地域においても拠点病院集中型の HIV 診療から地域連携を重視した HIV 診療体制の構築を目的とする。2020 年度は悪性腫瘍合併症に関する実情を調査する。

B. 研究方法

拠点病院会議メンバーからの基盤情報を基に、東葛地域の診療担当医師と協議し、癌年齢と言われる 50 歳以上の患者割合と担がん患者の実情を情報交換し問題点を抽出する。

(倫理面への配慮)

拠点病院医療従事者へのアンケートを基にした研究なので、倫理面の問題は無いと考える。

C. 研究結果

東葛北部エイズ治療拠点病院のがん患者数

病院名	50 歳以上/ 外来通院 患者数	50 歳以上 患者割合	うち、 担がん 患者
東京慈恵会 医科大学附 属柏病院	18/44	41%	1
東葛病院	35/88	40%	0
新松戸中央 総合病院	9/35	26%	0

D. 考察

船橋市、市川市、松戸市、柏市の HIV 感染症診療は、東京依存型である。先進がん診療を期待される中、悪性腫瘍患者の実態を把握しておくことが重要である。今回の調査では、比較的若年の患者が多い実情を反映して予想よりも担がん患者が少なかった。

E. 結論

東京近郊である、という土地柄から、がん合併の状況変化に対しての受け入れに懸念があり、現在でもがん診療においては東京都依存の実態がある可能性もある。慈恵柏病院では、1年前に悪性リンパ腫再燃例を、もともと診ていただいていた東大医科研病院に移送した事例もあった。国立がん研究センター東病院との連携も模索しつつ、慈恵柏病院への集約も視野に入れる必要がある。今後、患者が高年齢化していくなかで、地域連携にむけて課題が多い。

F. 健康危険情報

G. 研究発表

1. 論文発表 なし
2. 学会 なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし